



第8回 遠軽IC道の駅検討協議会 議事概要

平成28年10月6日(木) 午後1:30~

遠軽町役場 3階 大会議室

1. 開会

2. 話題

(1) 報告

・ 前回協議会の結果について 【参考資料1】

(事務局説明)

- ・ 中身についてはお目通しいただきたい。

(2) 議題

・ 道の駅基本設計図について 【資料1】

(事務局説明)

- ・ 1階の飲食スペースについては、6月の町広報誌及び町HPで、将来的に出店する意欲を持つ方や、現在は事業をやっていない個人の方にも周知し、参加者を募集した「産業・食部会」(参加者12名)を7月7日と7月27日の2回開催し、参加者との協議の結果、レストランではなくフードコートとする方針となった。
- ・ 高規格道路の遠軽IC開通に係るスケジュールについて、当初、開発局より平成30年代の早い時期の開通を目指すということで、遠軽町では最短で平成30年度中(平成31年3月)のIC及び施設の供用開始に向けて、施設全体の設計及び各種インフラの整備を進めているが、工事の進捗状況や各関係機関との協議の結果から、変動する可能性がある。
- ・ ロックバレースキー場の営業期間を考慮の上、来年度以降のスケジュールを再度検討し、引き続き協議を重ねていく方針であるということ、委員の皆様へ報告する。具体的なスケジュールについては、次回以降の検討協議会でお知らせしたいと考えている。
- ・ ICの形状及び国道333からの接続道路、構造について図面で説明。
- ・ 駐車場(普通車:約100台、大型:約8台、臨時:約100台)を予定している。
- ・ 駐車場からは、建物への搬入や大型車庫までの通路のための道路を設ける。
- ・ 平場(フロントスペース)ではイベントの開催を想定している。
- ・ フードコートは大きさが違うものを4ブース計画している。間仕切りの変更で大きさを変えることができる。
- ・ 1階トイレにはベビーチェアを女性側に2台、男性側に1台の設置を計画している。また、女性トイレには和式便器を2器設置し、更衣室は男性側にも設ける計画である。
- ・ ハイサイドライトから光を取りこみ、全体的に明るい雰囲気を保つような造りとする。

(座長)

- ・ この先、道路が伸びていくこととなるが、これが接続道路の最終的な形なのか。

(事務局)

- ・ これが最終的な形。ここがICとなり、ここから道の駅や、国道に降りて街に行くような形となる。将来的には遠軽北見道路と旭川紋別道路がぶつかる所にJCTができる予定。

(座長)

- ・ イベント広場(フロントスペース)が広すぎるように感じるが、駐車場から施設まで、遠いのではないか。



(事務局)

- ・現ロジの駐車場でもこのくらいの距離はあり、施設との離れはあまり変わらないと考えている。
- ・大型バスの乗降所を3か所、身障者用駐車場を2か所、電気自動車の充電施設を2か所、二輪車の駐車スペースを設けていることや、イベントとしては、虹の広場の管理棟前で行っている物産まつりのようなものを想定し、テントを張って販売するイメージを持っており、このようなスペースが必要と考えている。

(委員)

- ・職員の駐車場はどこになるのか。

(事務局)

- ・大型車庫の前面にスペースがあり、そこを利用することを想定している。

(委員)

- ・1階女性トイレに和式便器が2器あるが、一般的に洋式が普及している中で、必要性があるのか。

(事務局)

- ・当初は全て洋式便器を想定していたが、衛生面などから和式便器を利用する方がいるという意見を実際に女性からいただき、2器設置する方向となった。男性側からは、そういった意見は出ていない。

・運営等に向けた今後の検討について【資料2~4】

①遠軽IC道の駅を考える会の経過と体験プログラム意見募集

(事務局説明)

- ・産業・食部会では町広報及び町HPで参加者を募り、最終的に12件の申し込みがあった。
- ・トイレは利用者の利便性を優先し、手前に配置している。また、トイレを目玉として集客を図り、その客をどのような魅力的なもので、引っ張るのかという話をしていく。
- ・フードコートは、和・洋・中・スイーツなどのように、4つにジャンル分けした募集よりも、自由な発想の中で、地元産食材というテーマを持たせたものを募集し、その中から選ぶやりの方が良いのではないかという意見があった。
- ・出店者側としても、どういう体験プログラムがあるのかによって、提供する品目や売上の試算が変わってくることもあり、準備を進めるためにも並行した開催を望んでいる。また、参加者には体験部会への参加も呼び掛けている。
- ・売上以外でも設備投資の回収という課題があり、テナントが数年後入れ替わる可能性や、それぞれが提供する品目には違いがあることから、厨房設備は原則、出店者の負担とすることを前提としているが、管理者側で用意した設備をリースで貸し出すということも一つの方法として視野に入れている。
- ・産業・食部会の第3回以降は、出店・出品にあたっての基本ルールの具体的な検討と、飲食・物販・直売の部門別に分けた中での協議をし、必要に応じて第4回、第5回の開催を検討している。
- ・道の駅オープンまでの大筋のスケジュール案としては、今後策定するルールのもと、飲食のテナントについてはオープン予定の約2年前から入居者を募集し、一定の面接等を経て、オープンまでの準備期間を考慮しながら入居者の決定をしていきたいと考えている。なお、その他の業種についても、今後策定するルールのもと、募集・決定していくこととなる。
- ・体験部会は、前回の検討協議会において、先行して開催する産業・食部会を迫る形で募集をかけて開催していく旨をお知らせしていたが、産業・食部会の中でも、体験部会を早く動かしてほしいという意見もあり、このほど立ち上げに向けて動き出している。事務局では、10月号の



町広報誌の配布に併せて、町内の各自治会に班の数だけパンフレットを渡し、回覧をお願いし、9月28日から10月21日まで遠軽町在住の方を対象に意見及び体験部会のメンバーを募集しているところである。

- ・意見募集の対象を「遠軽町在住の方」としたのは、あくまで町の施設であり、対象の間口を広げすぎても組織的な意見や無責任な意見が集中する可能性があるため、条件として提示している。ただし、無記名式なので、抑止力程度の効果となる可能性もある。
- ・体験部会の主な構成メンバーは、提言書においては観光協会・スキー場管理者・体育協会・青年会議所・教育委員会とされており、このメンバーを中心に参加申込みいただいた方を加えて、部会を進めていくこととなる。
- ・意見記入用紙の回収用の箱については、一部、個人情報を含むことから窓口のある町の施設として、7か所のみを設置とした。
- ・主な夏場の体験プログラムについて、「斜面を有効利用したプログラム」と「立ち寄った人が気軽に利用できるプログラム」と項目を分けることで、スキー場ならではのものと、道の駅ならではのものとを区別している。
- ・提案する各プログラムの補足事項（導入を想定した場合の検証）
 - ①すべり台：小中高生を対象に行ったアイデア募集コンテストでは最も人気が高かったプログラムであり、安全面も考慮しつつ、誰もが楽しめる施設であることが求められる。
 - ②ソリすべり：既存の芝のまま利用が可能で、レンタル用品などの整備のみで、設備投資は基本的不かかることが予想される。
 - ③ジップライン：鉄塔やワイヤー・滑車、レンタル用の安全具一式の整備、その他乗換するクッション箇所への人員配置等が考えられる。
 - ④サマーゲレンデ：現在同様天然芝であればレンタル用具一式の整備のみで済むが、人工芝やピスラポと呼ばれるスノーマットを導入するとすれば大きな事業となることが予想される。
 - ⑤マウンテンバイク：マウンテンバイクを乗せるためのリフトの加工や、マウンテンバイクの購入が必要となる。また、コースの整備をどこまでするかによって、積雪の少ないロックバレースキー場に与える影響が変わってくる。なお、倶知安町の町営旭ヶ丘スキー場において、マウンテンバイク専用コースの「フロートレイル」が今年、お披露目され、来年の本格運用に向けて試験走行や体験会が行われており、夏の観光起爆剤として期待が寄せられているとのことで、今後、注目していきたい。
 - ⑥トレッキング：基本的にはコース整備のみで、それ以外は最低限となることが予想される。また、山ガールが流行っていることもプラスになるのではないかと考えている。
 - ⑦アスレチック：気軽に利用できることが前提となり、ボルダリングなどは本格的なものではなく、子どもでも楽しめる、安全な施設となることが予想される。
 - ⑧ドッグラン：道の駅の性質上、食品を扱うということで、基本的には施設内に犬を連れ込むことは難しいが、こういった施設があることで、利用者の満足度は高くなり、リピーターを確保できるのではないかと考えている。
 - ⑨足湯：敷地内に東屋などを設けて整備した足湯に浸かることで、来場者の疲れを癒すのはもちろん、滞在時間を延ばすことや町内温泉施設のPRとなる情報発信も可能となる。ただし、お湯の交換や浴槽の清掃等を頻繁に行い、レジオネラ菌等が発生しない様に、衛生管理を徹底する必要がある。
 - ⑩パークゴルフ：町内外の愛好家の利用が考えられる。また、ゲレンデのどの位置に整備するかによりコースの難易度やホール数が変わり、設備投資の額にも影響してくる。
 - ⑪ガーデニング：見て楽しめる貴重なプログラムになり、どの位置に配置するかが重要で、来場者が足を運びたいような見せ方の検討が大切になる。なお、ロックバレースキー場は



積雪が少なく、斜面での花の栽培は、畑を起こすことでゲレンデが傷むことに加え、大雨時は土砂の流出の恐れがある。また、土質的に岩の部分が多く、花の栽培に適さない可能性が高いことから、見せる部分を1か所にまとめたガーデニングを推奨している。

⑫各種イベント：虹の広場の管理棟前で開催している物産まつりのような、地域の特産品をPRするイベントや、音楽・ダンスなどのイベントや祭りが想定され、スキー場ならでは、道の駅ならではのアイデアを盛り込んでいきたいと考えている。

- ・今回、提案した体験プログラムについては、現在進めている施設の実施設設計とは別の部分であり、ジップラインのワイヤー整備、人工芝及びマットのゲレンデ整備、マウンテンバイクのリフト加工、足湯の浴槽・あずまや及び加温ろ過施設の整備、パークゴルフ場の整備などをはじめとして、導入の際には別途設計が必要となる。
- ・「ご意見記入用紙」提出期限の10月21日までに町HPからのEメールによる提出はもちろん、パンフレット及び用紙を役場本庁舎の住民生活課・企画課、各総合支所の地域住民課、保健福祉総合センター「げんき21」の保健福祉課、教育委員会庁舎の社会教育課に回収用の箱と併せて設置しているので、本会に参加の委員の皆様においては、意見及びメンバー募集の周知について協力いただくよう、お願いしたい。

(座長)

- ・スキー場頂上に展望台を設置することについては、体験プログラムの一覧に入っていなかったが、どのように考えているのか。

(事務局)

- ・今回は掲載していないが、リフトの夏場利用を考えていく中で、展望台の整備の可能性は大きいと考えている。ジップライン等もリフトの運行が必要となり、そういったプログラムも含めて検討していく。

(座長)

- ・駅長の募集や指定管理者の選定のスケジュールはどうなるか。また、指定管理者の選定には議会の議決が必要となる。

(事務局)

- ・指定管理者は、運営側の準備期間を考えると、最低でもオープンの1年から1年半前には決定したい。建物ができて、あとはお願いします、という話にはならない。

(委員)

- ・体験プログラムについて、乗馬体験などができるようなスペースを設けてほしい。それがあってもなくても良いので、イベントなどができるようなスペースを上手く考えていただきたい。

(座長)

- ・白滝では犬ぞりや馬のトレッキングが財産としてある。体験部会にも、関係者の方に入ってもらおうと良いのではないか。

(委員)

- ・要請があれば参加したい。

(アドバイザー)

- ・まずは道の駅のオープンの時期を決めなければならない。建物を建ててもオープンまでの期間が開いていたり、そこが決まらない事には、いつ指定管理者を決めるのか、いつ駅長を募集するのかが決まってこない。

(座長)

- ・基本的にはICの開通と同時にオープンという認識で良いのか。



(事務局)

- ・考え方によるのではないかと。仮に、半年前にプレオープンして認知度を高めて、ICの開通に合わせてグランドオープンという方法もある。これは、工事の関係を含めて、町で検討しているところである。いずれにしても、接続道路が整備されないことにはできない。

(アドバイザー)

- ・道が繋がっていなくても、テナントに人が来るのか。主体がない状況で話を進めているが、指定管理者が決まった段階でやりたいことと違う可能性もある。

(座長)

- ・駅長を早く決めていくことが大事。ヘッドが決まれば進めていけないのではないかと。決まっていない状況で、部会を進めていったとしても、これではやっていけないという事にもなりかねない。

(アドバイザー)

- ・経営のことを考えると、後から駅長が決まって、既にやることが決まっていると言われても力が入らないし、経営のスタイルとしては上手くいかないパターンではないかと。オープンがずれるとしても、先に主体が決まっていれば、逆にゆっくり考える時間ができたということで、進め方としては前向きである。
- ・役場で指定管理者の条件を決めて、主体となるリーダーを募集するなりして据え付けて、そのリーダーを中心に時間をかけて進める中で、各部会にもそのリーダーが入り協議していくことができれば、流れとしては自然なのではないかと。

(座長)

- ・着工はいつ頃となるのか。

(事務局)

- ・当初から平成30年代の早い時期というスケジュールで動いてきており、平成29年度から着工していかなければならないと考えていたが、現在、スケジュールを検討している。

(座長)

- ・来年の4月までに駅長を決められるか。

(事務局)

- ・指定管理者の選定には議会の議決が必要となり、それから駅長の募集という形が普通である。逆に、先に駅長を決めておいて、その方が指定管理者に入るという方法もある。

②遠軽IC道の駅管理運営方針の検討【資料4】

(事務局説明)

- ・事務局では、産業・食部会を2回開催し、体験部会についても立ち上げに向けて準備を進めており、今後は情報発信部会についても追って進めていくこととなるが、提言書から一步前進した、遠軽IC道の駅の設置目的を達成するための管理運営の取り組み方針として「遠軽IC道の駅管理運営方針」の策定を検討している。
- ・策定の理由としては、考える会をはじめとして、今後のより具体的な協議にあたって、施設全体の特徴や管理運営の方針を前提としないと、協議を進める中で、議論がかみ合わないことが生じる可能性が懸念され、そうならないための共通認識として、方針を定め、全容を理解する必要があると考えて、策定するものである。
- ・本検討協議会において「遠軽IC道の駅管理運営方針」の原案を報告し、今年度中の策定を目指して、引き続き検討を進めていくものとなっている。

(座長)

- ・管理運営方針含めて一通り流れは理解できたと思う。指定管理ということについては説明にも



あったような形で進めていく。駅長については、来年の4月に道の駅の駅長として公募するとして、議会関係は通るか。ここが決まらないと進まないと思う。骨になる者が「さあ、やるぞ！」と中心になって進めていかなければならない。方針の検討はある程度できており、まずは駅長が欲しい。

(町長)

- ・指定管理については議決が必要となる。

(事務局)

- ・内容については、議会に今までもずっと説明してきている。運営の細かい部分についてはこれからとなる。

(アドバイザー)

- ・募集するとなると主体が必要となり、誰が雇うのかを決めなければならない。

(座長)

- ・それを事前に議会・委員会には説明していかなければならない。建築・設計については、どのような状況か。

(事務局)

- ・本日、説明した図面について承認いただければ、その方向性で進めていく。現在もコンサルの提案を聞きながら進めており、来年の3月を目途に完了する予定である。

(座長)

- ・この枠の中でやるしかない。

(委員)

- ・こういった形であれ、やりにくいといった意見は出てくると思うが、これでやっていくということにしなければ、前に進めない。
- ・接続道路における、町と国との事業のすみ分けはどのようになっているのか。

(事務局)

- ・接続道路の工事施工については開発局の方で随時進めていく予定である。

(町長)

- ・スキー場ロッジが先に使えるのであれば、使った方が良い。

(事務局)

- ・2階ロッジ部分は先行してシーズンに合わせてオープンする可能性はある。常に建物に行けるような、通路の整備を開発局では考えている。

(町長)

- ・F I S（国際スキー連盟）のファーイーストカップの誘致に成功し、平成28年度から2年間、初めて遠軽で国際大会を開催することが決定している。一刻も早く、新しいロッジで大会を行いたいと思っている。

(委員)

- ・スキー場の運営としては、平成29年度から解体したとして、できれば仮設ロッジは1シーズンのみとしてほしいと考えている。

(事務局)

- ・上下水道の工事が平成30年度中の工期となっており、そのシーズンのオープンは難しく、3月の大会には間に合わせるのであれば、シーズン中に引越をしながら、という状況になる。

(座長)

- ・スキー場の要望として仮設ロッジは1シーズンのみということと、ロッジを早くオープンした場合、道の駅部分の店舗などについてはどうするのかということが、問題となってくる。



- ・ 駅長が決まって後は全て任せるのではなく、関係各所が最後まで関わりあいながら進めていくことが大事。

- ・ 図面については、このような形で良いのではないか。

(事務局)

- ・ 図面は100%これということではなく、あくまでたたき台であって今後も微調整はあり、議会にも説明していく。

(町長)

- ・ 維持管理費は本当に大事な部分。

(座長)

- ・ アドバイザーからも設計の方に提案ないか。

(アドバイザー)

- ・ 建築側でも考えていると思う。雨の影響を考えて木を使うだとか。

(事務局)

- ・ 立面図についてはまだまだ検討するところがある。なるべく維持管理費がかからないものにしていく。

(座長)

- ・ なるべくではなくて、徹底的にやらないとまずい。

- ・ 検討協議会の今後のスケジュールはどのように考えているか。

(事務局)

- ・ 年明け、1月頃を予定している。

(座長)

- ・ オープン含めての、全体のスケジュールももっと詰めておきたい。

(委員)

- ・ 接続道路を作ってくれるのであれば、認知度を上げるためにも、先行したオープンによりPRができるのではないか。

(委員)

- ・ F I Sの大会は、年度で言えば平成28年度から2年間の予定。開催日は平日の3日間。

(事務局)

- ・ 下水道が接続されれば、3年目の平成31年3月の開催に間に合う可能性はある。今後、開発局からスケジュールが公表されてくる中で、オープンの時期について協議を進めて、次回の検討協議会でももう少し詰めていきたいと考えている。

(委員)

- ・ 国際大会も控えているということで、スケジュールについての要望もできるのであればしていきたい。

(座長)

- ・ タイムスケジュールは事務局で詰めてもらい、年明けの第9回の検討協議会で大枠を決めていきたい。



3. 閉会

(町長)

- ・熱心な議論を重ねていただき、ありがたく思っている。いよいよ佳境に入ってきたが、ここまで来るのには本当に大変だった。高規格道路の延伸からの発想の事業であり、開発局、北海道、それから公安委員会との折衝を経て、ようやくここまでの形になってきた。道路がいつ来るかというのは、開発局の予算のつき方もあって、我々もわからない。今、皆さんには一番おいしい所を考えていただいており、ここがコアになってくる部分である。今後とも、皆さんの知恵を拝借しながら、いいものを作っていきたいと思うので、よろしく願いたい。

(配布資料)

- 参考資料1 第7回遠軽IC道の駅検討協議会 議事概要
- 資料1 道の駅基本設計図
- 資料2 遠軽IC道の駅を考える会の経過
- 資料3 体験プログラム意見募集パンフレット等
- 資料4 管理運営方針の検討